

**Smile Please!**  
藤原 紀香

## あふれ出る感謝の気持ち



©Norika Fujiwara



2002年にアフガニスタンへ行ったのをきっかけにボランティアを始めた私は、04年にカンボジアを訪ねました。両国で子どもたちとふれ合い、感じたことは、みんな感謝の気持ちであふれていることでした。

アフガンは「タシャケール」、カンボジアでは「オックンチュラーン」。ともに「ありがとう」の意味で、子どもたちはどんなささいなことでも手を合わせ、感謝の言葉をしきりに口にします。

日本人は礼儀正しいといわれてきましたが、最近は相手への感謝の気持ちを素直に表す姿がなかなか見られなくなっているかも。やってもらって当たり前、と思いがちなのかもしれません。そんな現代の日本で暮らす私は、アフガン、カンボジアの子どもたちから多くのことを学びました。貧しくても純粹な心。これは、私の原動力になっています。

両国の子どもたちにはもうひとつの共通点があります。学びたいと願う心です。

カンボジアでは、首都プノンペンやアンコール遺跡群で知られるシェムリアップなどに世界中から多くの観光客が訪れるようになり、栄えています。ちょっと郊外に出るとまだまだ発展途上です。学びたいという心にこたえる環境、学校は都市部では増えていますが、郊外や地方では整っていません。

親から労働力として数えられてしまい、学校に通わせてもらえない子どもたちもたくさんいます。親たちの意識を改革するためにも学校が必要です。

そこで私は、脚本家の小山内美江子さんが代表を務める「JHP・学校をつくる会」と協力して、郊外に学校を作ろうと考えました。